

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第159集

上 尾 市

中 妻 三 丁 目 遺 跡

上尾中妻団地関係埋蔵文化財発掘調査報告

1 9 9 4

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



埋壙 1・2・3



埋壙 4



埋壙 2 内



埋甕 2



埋甕 3



埋甕 2 内



埋藏 1



埋藏 4

序

埼玉県は、都心に近いこともあり、大都市型の開発が著しく進行してまいりました。特に、県南部は、ベッドタウンとして住宅の建設が進み、多くの皆様に住環境を提供してきました。

その中でも都心から40km圏内に位置する上尾市は昭和40年代始めから市域全体に宅地化が進み、現在では埼玉を代表する一大住宅都市になっております。

上尾市の北西部に位置する中妻地区は山林と畑の多いところですが、近年土地区画整理事業の伸展に伴い、宅地化が進んでおります。このたび、中妻三丁目において埼玉県住宅供給公社が住宅開発することになりました。

この場所は、鶴川に近い台地で縄文時代の中妻三丁目遺跡としてすでに知られた所です。そこで、その取り扱いについて関係機関で慎重に検討を重ねてまいりましたが、当事業司が発掘調査を実施して記録保存の処置をとることになりました。

発掘調査の結果、中妻三丁目遺跡は縄文時代の集落跡で、今から約5000年前の埋蔵が4個列んで見つかるなど、縄文時代の各時期の遺構・遺物が出土しました。これらの遺構や遺物は当時の人達の生活を振り返って学ぶ貴重な資料です。

本書はこれらの成果をまとめたものです。本書が学術研究の基礎資料として、また、埋蔵文化財の保護及び教育・普及の資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に関する調整から本書の刊行に至るまで多岐にわたる御指導、御協力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県住宅供給公社、上尾市教育委員会、並びに地元関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成6年9月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 荒井 桂

例言

1. 本書は、埼玉県上尾市中妻三丁目18番1他にある中妻三丁目遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査届けに対する文化庁長官からの指示通知は平成5年3月23日付け委保第5の1539号である。
2. 遺跡名の略号は、NKZMである。
3. 発掘調査は、上尾中妻団地建設事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育庁生涯学習部文化財保護課の調整のあと、埼玉県住宅供給公社の委託によって、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 発掘調査は、橋本 勉、伴瀬宗一が担当して、平成4年9月1日から平成4年12月25日までおこなった。整理作業は橋本が担当して、平成6年4月1日から平成6年9月30日までおこなった。発掘調査と整理作業の組織は第1章に記述した。
5. 遺跡の基準点測量と航空写真は、株式会社 パスコに委託した。
6. 航空写真以外は、橋本と伴瀬が撮影した。
7. 出土品の整理・図版の作成・本文の執筆は、橋本が担当した。
8. 本書の編集は、資料部資料整理第1課の橋本がおこなった。
9. 本書にかかる資料は平成6年以降県立埋蔵文化財センターが保管する。

凡例

1. X・Y座標による表示は、国家標準直角座標第IV系に基づく座標値を表し、方位はすべて座標北を示した。
2. 縮尺は原則として遺構全図を1:400、遺構図・遺物出土状況図を1:60、か跡などの個別図を1:30、縄紋土器実測図を1:5、縄紋土器展開図を1:6、縄紋土器拓影図を1:3、1:2、石器を2:3、1:3にした。例外は挿図中に記入した。
3. 挿図中の網かけは、炉跡と焼土の範囲を示した。

目次

口絵	III. 遺跡の概要	8
序	IV. 遺構と遺物	9
例言	1. 先土器時代	9
凡例	2. 縄紋時代	11
目次	3. 近・現代	18
I. 発掘調査の概要	4. グリッド出土土器	20
1. 調査に至るまでの経過	5. グリッド出土石器	30
2. 調査の経過	V. 結語	34
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	1. 大宮台地の胴部渦巻紋系列(追加)	34
II. 遺跡の立地と環境	2. 大宮台地の加曾利EⅢ式～称名寺式	34

挿図目次

第1図 周辺の関係遺跡(1:25,000)	5	第15図 溝	19
第2図 中妻三丁目遺跡周辺の地形(1:2,500)	6	第16図 グリッド出土土器(1)	20
第3図 中妻三丁目遺跡全体図	7	第17図 グリッド出土土器(2)	22
第4図 基本層位	8	第18図 グリッド出土土器(3)	23
第5図 石器集中	9	第19図 グリッド出土土器(4)	24
第6図 石器実測図	10	第20図 グリッド出土土器(5)	25
第7図 第1号住居跡	11	第21図 グリッド出土土器(6)	26
第8図 第2号住居跡	12	第22図 グリッド出土土器(7)	27
第9図 礎群	12	第23図 グリッド出土土器(8)	28
第10図 埋蔵1～4	13	第24図 グリッド出土土器(1)	31
第11図 埋蔵実測図(1)	15	第25図 グリッド出土土器(2)	32
第12図 埋蔵実測図(2)	16	第26図 大宮台地の胴部渦巻紋系列(追加)	35
第13図 埋蔵実測図(3)	17	第27図 大宮台地の加曾利EⅢ式～称名寺式	36・37
第14図 土壌	18		

表 目 次

表 1 石器集中出土石器一覽	10	表 2 縄紋時代出土石器一覽	33
----------------------	----	----------------------	----

図 版 目 次

図版 1 遺跡全景・先土器時代石器集中	図版 7 縄紋時代土器(4)・縄紋時代土器(5)
図版 2 第 1 号住居跡・第 2 号住居跡	図版 8 縄紋時代土器(6)・縄紋時代土器(7)
図版 3 埋甕 1・2・3・埋甕 1・埋甕 2 内部 埋甕 4・埋甕 4 内部	図版 9 縄紋時代土器(8)・埋甕 1・埋甕 3
図版 4 第 1 号土墳・第 2 号土墳・第 4 号土墳 第 5 号土墳・第 6 号土墳・第 7 号土墳	図版 10 埋甕 2・埋甕 4・埋甕 2 内土器 縄紋時代土器(9)・縄紋時代土器(10) 縄紋時代土器(11)
図版 5 先土器時代石器・縄紋時代土器(1)	図版 11 縄紋時代土器(12)・縄紋時代土器(13)
図版 6 縄紋時代土器(2)・縄紋時代土器(3)	図版 12 縄紋時代石器(1)・縄紋時代石器(2)

I 発掘調査の概要

1. 調査に至るまでの経過

埼玉県住宅供給公社では、上尾市中妻四丁目2番地に(仮称)上尾市中妻団地の建設を予定し、平成4年2月に用地取得を行い、同年8月には造成工事の着手を計画していた。こうした開発にたいして文化財保護課では、開発部局との事前協議を実施して、文化財の保護について漏れのないように調整を進めているところである。上尾市中妻団地予定地内に関しても、埋蔵文化財の所在が不明であるが、一部、用地が「上尾市No.308遺跡」に隣接することもあり、事前に試掘調査を実施して確認する必要がある旨の調整をおこなった。これを受けて埼玉県住宅供給公社理事長より平成3年10月2日付け3埼玉公企第117号にて埋蔵文化財についての照会が提出された。

この照会を受けて文化財保護課では平成3年12月19、20日の二日間にわたって対象地域の試掘調査を実施した。この結果、対象地の東側より縄文時代の遺物・遺構が検出され、周知の中妻三丁目遺跡が「西南方向に広がる」ことが確認された。平成4年2月4日教文第772号をもって埼玉県住宅供給公社理事長あて下記内容の通知をおこなった。

1. 造成予定地は縄文時代の集落跡である中妻三丁目遺跡に含まれること。
2. 上記の埋蔵文化財包蔵地は、現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状を変更する場合は、事前に文化財保護法第57条3の規定に基づき文化庁長官あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施すること。

なお、発掘調査の実施については、別途文化財保護課と協議すること。

この通知をもとに関係機関と協議を重ねたが、計画変更が不可能なため、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなった。また、発掘調査は(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施することとなった。埼玉県知事から文化財保護法第57条3に基づく発掘通知が、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団から発掘調査届がそれぞれ文化庁長官に提出され、発掘調査が平成4年9月1日から実施された。なお、文化庁長官から(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長宛に平成5年3月23日付け委保第5-1539で発掘調査の実施についての指示通知があった。

(文化財保護課)

2. 調査の経過

発掘調査

平成4年9月1日から平成4年12月25日まで実施した。発掘対象面積は3,000㎡であった。グリッドは10mを基準として設定した。北から南にAからHまで、西から東に0から9であった。

9月—プレハブ設置、機材運搬などの発掘準備を行った。

10月—重機による表土除去作業をおこなった。調査前が山林であったため、切株が林立する状況であった。遺構確認面である褐色土からローム層まで浅かったため、なるべく重機による抜根はさけた。抜根に時間がかかったが終了次第順次遺構確認に入った。攪乱がかなり入っていたが、縄紋時代と思われる住居跡2軒、埋嚢3基、近世以降の土壇7基・溝1条を確認した。また、抜根時に尖頭器が出土したがプライマリーな層からではなかった。同時に包含層から出土した遺物も、記録しながら取り上げた。

11月—順次遺構を掘り進めた。住居跡は、覆土の状況と僅かに出土した微細な土器などから、縄紋時代前期とした。土壇は、近世以降であった。埋嚢は、土層図・平面図をとりながら、半裁して掘り進めた。真ん中の埋嚢に隣接して、もう一基あることが判った。遺構が掘り終わり次第、図面・写真を撮った。

12月—図面・写真の最後の詰めを行なった。終了後、航空写真撮影をして、先土器時代のテストピットを開けにかかった。斜面の肩の部分を中心にかなりの数をあけたが、F-2グリッドでローム層から小剥片が出土しただけだった。図面作図・写真撮影をして先土器時代の調査を終了した。

整理・報告書の刊行

平成6年4月1日から平成6年6月30日まで3か月間実施した。4月に出土遺物の水洗い・注記・復元作業を行った。同時に図面の整理・第二原図を作成し、一部トレースを進めた。

5月に入って、土器の実測・トレース・破片の拓本・断面実測・トレースを行った。遺構図の版組も行い終了した。

6月、遺物写真撮影・遺物版組を行った。版組を終了し、割り付け・編集をして原稿執筆をした。6月中に印刷以外の報告書刊行の全てを終了した。

7月から9月にかけて、印刷所に入れ、校正をして報告書を刊行した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

(1)発掘調査（平成4年度）

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 荒井修二

副理事長 早川智明

常務理事兼

管理部長 倉持悦夫

理事兼調査部長 栗原文蔵

管理部

庶務課長 萩原和夫

主査 賛田清久

主事 菊池久

経理課長 関野栄一

主任 江田和美

主事 長滝美智子

主事 福田昭美

主事 腰塚雄二

調査部

調査部副部長 梅沢太久夫

調査第4課長 石岡憲雄

主任調査員 橋本勉

調査員 伴瀬宗一

(2)整理事業（平成6年度）

理事長 荒井桂

副理事長 富田真也

専務理事 枡原嗣雄

常務理事兼

管理部長 加藤敏昭

理事兼調査部長 小川良祐

管理部

庶務課長 及川孝之

主査 市川有三

主事 長滝美智子

主事 菊池久

専門調査員兼

経理課長 関野栄一

主任 江田和美

主事 福田昭美

主事 腰塚雄二

資料部

資料部長 塩野博

資料部副部長兼

資料整理第1課長 谷井彪

主任調査員 橋本勉

II 遺跡の立地と環境

大宮台地は、関東地方のほぼ中央にあって、北部の吹上町付近から南部の川口市付近まで、北西から南西に細長く延びる台地で、距離は30km程である。台地の西側では、埼玉県を貫く大河である荒川が流れ、武蔵野台地と向している。

上尾市は、大宮台地のほぼ中央部にあり、西の荒川低地と東の中川低地に挟まれた標高約11mの台地上にある。この台地は、侵食を受けて形成された開析谷が、樹枝状に入り組んで、起伏の多い地形を形成している。この地形によって、東部の原市・瓦葺地域と西部の藤波・畔吉・平方・西貝塚は、先土器時代から近・現代にいたるまでの多くの遺跡が存在している。

中妻三丁目遺跡は、上尾市の北西寄りにあって、台地のほぼ中央にあり、遺跡の少ない場所である。先土器時代・縄紋時代・近・現代の遺跡であり、それぞれの時代の遺物が少量出土している。

ここでは、縄紋時代の遺跡を中心に概観する。先土器時代は、殿山遺跡・箕輪Ⅰ遺跡・天沼遺跡・在家遺跡などがあり、殿山遺跡ではハードローム層から黒色土層にかけて、多くのユニットが見つかった。中妻三丁目遺跡に先行する時期であった。

縄紋時代草創期は、十二番耕地Ⅱ遺跡から隆起縞紋系土器・爪形縞紋系土器・多縄紋系土器が出土した。早

期・縞紋系土器は、宿前Ⅰ遺跡・十二番耕地遺跡・宿北Ⅱ遺跡などで見つかっていて、宿北Ⅱ遺跡では住居跡が1軒検出された。

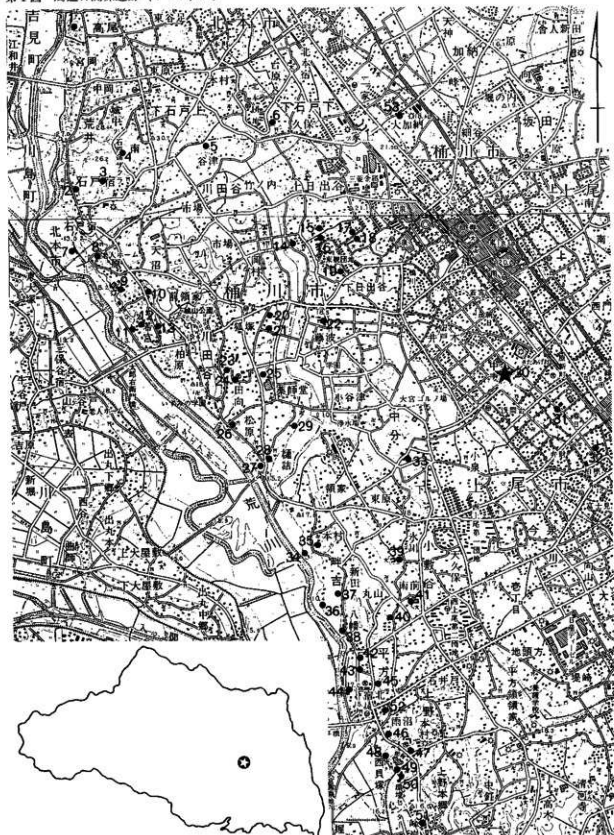
早期・条痕紋土器は、十二番耕地遺跡・殿山遺跡・薬師耕地前遺跡・天沼遺跡・宿北Ⅱ遺跡などで発見されていて、殿山遺跡・薬師耕地前遺跡・天沼遺跡では住居跡・ファイヤーピット（火穴）などの遺構が検出された。

前期は、水川遺跡では関山式期・諸磯式期の住居跡が15軒見ついている。後山遺跡・稲荷台遺跡・宿北Ⅱ遺跡などでも関山式期の住居跡が多く見ついている。また、小谷津遺跡・在家遺跡からは4軒程の諸磯式期の住居跡が見ついている。縄紋時代を通して遺跡・遺構の多い時期である。

中期は、全国的に遺跡の増大する時期であるが、当地方では大規模な遺跡が以外と少ない。秩父山遺跡・水川遺跡・雨沼Ⅰ遺跡などで比較的大きな集落跡が検出されている。中妻三丁目遺跡から出土した4個の埋甕は、北本市の提灯木山遺跡などと中期終末を考える良好な一括資料である。

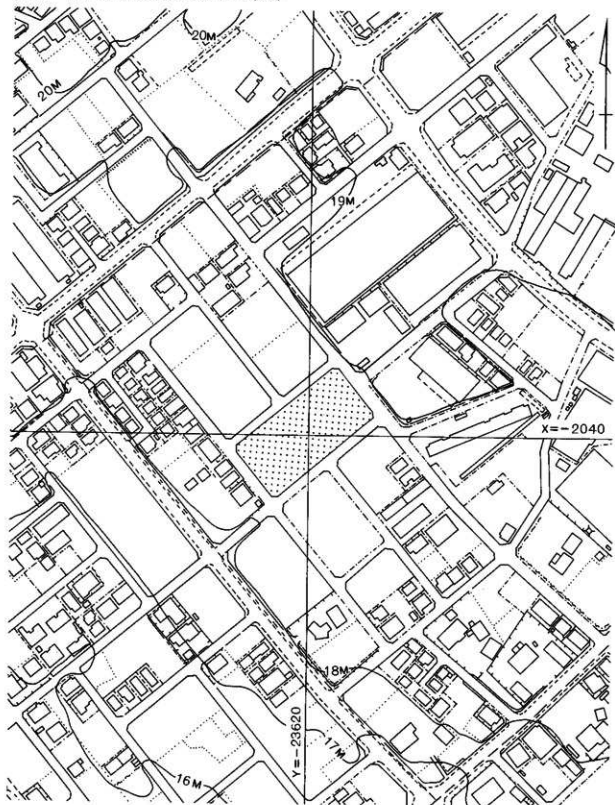
後期では、十八番耕地遺跡・柏座遺跡・山下遺跡・小林遺跡・天沼遺跡などから多くの住居跡を持っている集落跡が発見されている。

第1図 周辺の関係道路 (1:25,000)

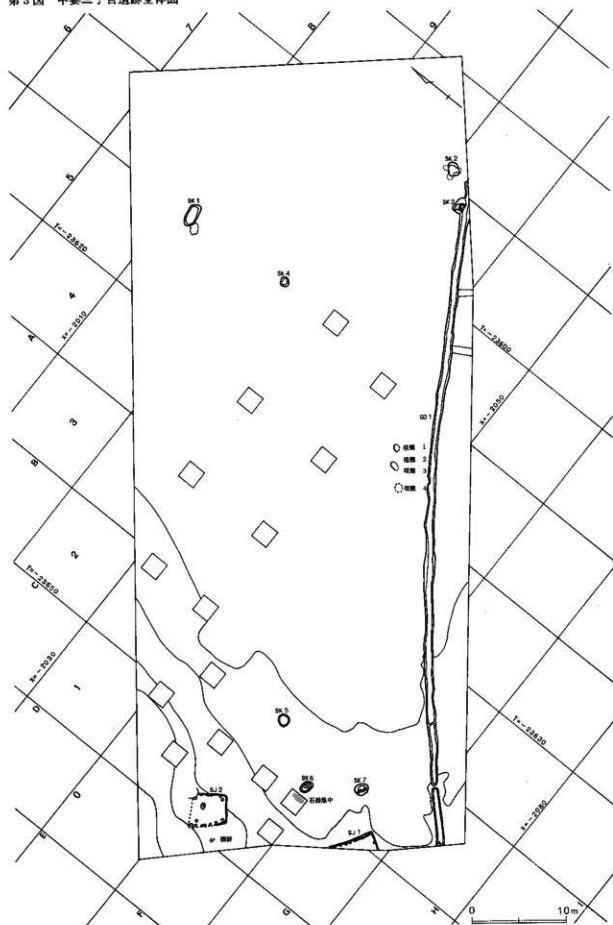


- | | | | | | | | | | |
|-------------|------------|----------|----------|---------|-----------|-----------|------------|---------|------------|
| 1. 河島松宮通 | 2. 石戸通 | 3. 葛山南通 | 4. 八重坂通 | 5. 丸山通 | 6. 横戸通 | 7. 新台1通 | 8. 台原通 | 9. 西合通 | 10. 中合通 |
| 11. 城山1.2号 | 12. 川田谷のこま | 13. 三ツ木通 | 14. 宮通 | 15. 安谷通 | 16. 安谷通 | 17. 高井北通 | 18. 高井通 | 19. 西1通 | 20. 砂ヶ谷戸通 |
| 21. 砂ヶ谷戸1通 | 22. 後山通 | 23. 飯坂通 | 24. 小在家通 | 25. 奥上通 | 26. 八幡新地通 | 27. 宮前通 | 28. 新野神社古墳 | 29. 奥中通 | 30. 中野三丁目通 |
| 31. 浅間台浅間家通 | 32. 柏原通 | 33. 小谷通 | 34. 奥山通 | 35. 高井通 | 36. 神谷通 | 37. 江川山古墳 | 38. 砂ヶ谷戸 | 39. 西通 | 40. 在家通 |
| 41. 小林通 | 42. 奥物通 | 43. 奥物通 | 44. 奥物通 | 45. 奥物通 | 46. 奥物通 | 47. 奥物通 | 48. 奥物通 | 49. 奥物通 | 50. 奥物通 |
| 51. 奥物通 | 52. 奥物通 | 53. 奥物通 | 54. 奥物通 | 55. 奥物通 | 56. 奥物通 | 57. 奥物通 | 58. 奥物通 | 59. 奥物通 | 60. 奥物通 |

第2図 中裏三丁目遺跡周辺の地形 (1:2,500)



第3図 中妻三丁目遺跡全体図



III 遺跡の概要

中妻三丁目遺跡は、荒川左岸から奥まった場所にあった。遺跡の周りを見渡すと、区画整理が進んだ住宅街の真ん中で、現在は平坦に見える場所にあった。遺跡の四方は、道路に分断されていて、調査区は、長方形に盛り上がり残存していた。

遺跡の標高は、約18mで南側で緩やかに傾斜していた。調査区は、約3,000m²で東西に長い長方形であった。調査区でも、表土を除去してしまうと、西側で緩やかに傾斜していた。(第2図、第3図)

今回の発掘調査では、先土器時代の石器集中が1箇所、縄紋時代前期の住居跡が2軒、礫群が1箇所、縄紋時代中期の1列に並んだ埋蔵が4個体、近・現代の土壌が7基検出された。

先土器時代の石器集中は、遺跡の南西側D-2グリッドで検出された。ハードローム層上面での出土で、縦長剥片だけが出土した。

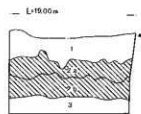
縄紋時代の住居跡は、遺跡南西側の斜面に面した場所で見つかった。残念ながら、土器の出土はほとんどなかったが、長方形の掘り込みや壁下孔があることなどから前期と思われる。

埋蔵は、加曾利EⅢ式期であった。一部の埋蔵の中に焼土が入っていたので、埋蔵の周囲を丹念に調べてみたが、柱穴などは見つからなかった。

縄紋時代の包含層は所々に残っていて、D-2、E-2グリッドなどの斜面部で土器が多く見つかった。時期は、縄紋時代早期燃糸紋系土器から縄紋時代後期安行式系土器まで、破片個数は少ないが各時期の土器が出土した。

石器も、数は少ないが、出土した。縄紋時代早期と思われる尖頭器と大形三角形石鏃が極めて特徴的であった。燃糸紋系土器に伴うスタンプ形石器、条痕紋系土器に伴う礫器などが少数出土した。

第4図 基本層位



IV 遺構と遺物

1. 先土器時代

本遺跡では、ローム層中にテストピットを設定して、先土器時代遺物の検出に努めた。残念ながら、石核と剥片が少数出土した石器集中が1箇所検出されたにとどまった。以下、石器集中 1として説明する。

石器集中 1 (第5図、第6図)

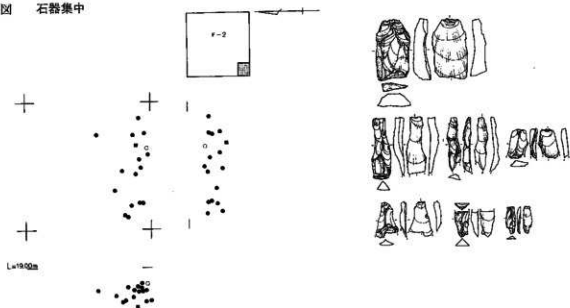
緩やかな斜面部に面した、F-2グリッドで見つかった。石器が出土した層位は、ハードローム層上面であった。極めて小さな石器集中で、長径約2m、短径約1mの楕円形に分布が納まる。遺物の高低差は約

0.35mであった。遺物数は、剥片が18点であった。

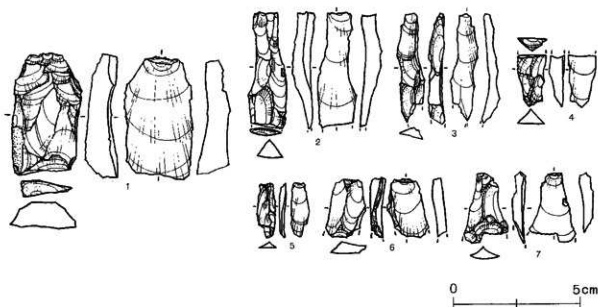
剥片 (第6図1~6)

チャートを素材とするものが大部分で、頁岩とメノウが僅かにある。長さが5cm前後の大形剥片と2.5cm前後の小形剥片に分かれる。1は自然面を残す。2、3ともに下面が切断されている。4は切断された下半部である。5~7は小形剥片で、下半が切断されている。

第5図 石器集中



第6図 石器実測図

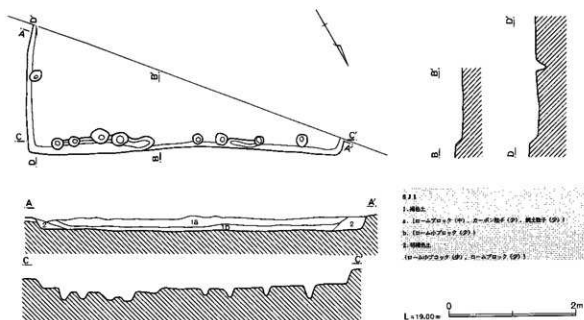


第1表 石器集中出土石器一覧

番号	グリッド	南-北(cm)	西-東(cm)	標高(cm)	器 種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石 質	備 考
1	F-2	868	977	1839	切断剥片	4.8	2.8	1.3	18.44	チャート	第6図 1
2	F-2	939	942	1855	切断剥片	4.6	1.5	0.8	3.64	チャート	
3	F-2	851	913	1865	切断剥片	4.4	1.1	0.8	1.79	チャート	
4	F-2	873	993	1873	切断剥片	2.1	1.2	0.6	0.98	チャート	
5	F-2	912	977	1869	切断剥片	2.2	0.7	0.3	0.34	メノウ	
6	F-2	969	987	1864	切断剥片	2.3	1.6	0.7	1.99	チャート	
7	F-2	882	998	1849	切断剥片	3	1.8	0.7	1.4	頁 岩	
8	F-2	979	961	1869	剥 片	2.1	2.2	0.4	1.28	頁 岩	7
9	F-2	890	983	1865	切断剥片	1.9	1.1	0.2	0.43	チャート	
10	F-2	969	987	1864	切断剥片	1.3	0.9	0.2	0.19	チャート	
11	F-2	908	955	1844	切断剥片	1.5	1.1	0.4	0.65	チャート	
12	F-2	903	984	1873	剥 片	1.8	0.9	0.3	0.52	メノウ	
13	F-2	976	958	1847	剥 片	1.9	0.8	0.6	0.75	チャート	
14	F-2	851	972	1864	切断剥片	1.3	1	0.3	0.36	チャート	
15	F-2	849	992	1848	剥 片	2.6	2.1	0.6	2.95	頁 岩	
16	F-2	825	984	1865	切断剥片	1.6	2.3	1	4.3	チャート	
17	F-2	962	969	1852	切断剥片	1.5	1.6	0.8	1.52	チャート	

2. 縄紋時代

第7図 第1号住居跡



第1号住居跡 (第7図)

G-1・G-2グリッドで検出された。調査区南東の端で見つかったため、大部分が調査区外であった。埋土状況は、自然堆積であった。長径-5.1mの長方形をしていたものと思われる。深さ-0.2mと浅く、床面も軟弱であった。壁に沿って、壁下孔があった。主柱穴は、検出出来なかった。N-58°-Eであった。

覆土からは、図示に耐えられない微小な土器が数片出土した。時期決定は、困難であるが、消極的な意味で、前期としておきたい。

第2号住居跡 (第8図)

F-2グリッドで見つかった。斜面部であったため、北東側は流れていて壁は検出出来なかった。主軸方向はN-38°-Wで、長径-3.85m、短径-3.5m、深さ-

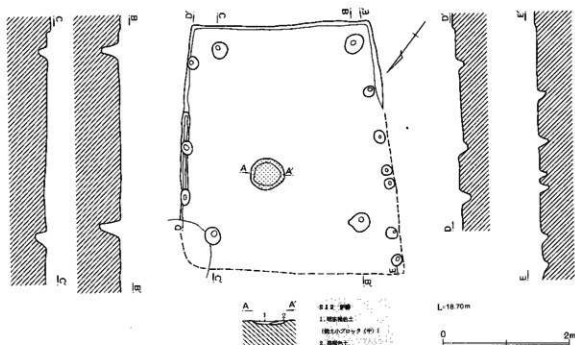
0.1mの長方形をしていた。主柱穴は4本で、深さ-0.25m前後であった。長軸方向の壁には、浅い壁下孔が見つかった。床面は軟弱で、炉は中央から北よりに位置していた。長径-0.55m、短径-0.50mで、深さ-0.1mと浅かった。

覆土からは、図示に耐えられない微小な土器が数片出土した。時期決定は、困難であるが、消極的な意味で、前期としておきたい。

第1号礫群 (第9図)

F-2グリッドで検出された。層位は、ローム上の褐色土であった。長径-約2m、短径-1.5mの範囲に焼けた礫が分布していた。土器を含んでいなかったため、時期は明確でなかったが、消極的な意味で早期末としておきたい。

第8図 第2号住居跡



埋 葬 (第10図～第13図)

E-5グリッドで見つかった。北東方向に4個体が並んでいた。埋葬の時期はいずれも加曾利EⅢ式であった。以下、個別に記述する。

埋 葬 1 (第10図、第11図3)

一番北西よりの埋葬であった。加曾利E系列の胴部上半部であって、確認した時は口縁部はなく、正位に埋まっていた。掘り方の中央部には、浅い窪みがあった。

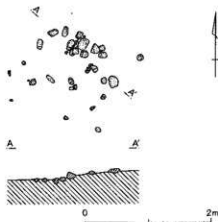
幅広の磨消縄紋を持ち、磨消部に沈線が1条入っている部分があった。上部で「の」字状のモチーフを描くものと思われる。縄紋はRL縦回転であった。

埋 葬 2・3 (第10図、第11図1、2、第12図1、2、第13図1、2)

真ん中の埋葬であった。一つの掘り方に2個体が埋められていた。埋葬2は逆位。埋葬3は正位であった。さらに、埋葬2の中には両耳壺が入っていた。掘り方は、大きめに掘られていた。

第11図1は、加曾利EⅢ式・胴部渦巻紋系列である。4単位波状口縁で、口縁部は内灣し、胴部で緩く括れる。胴部下半以下は欠損していた。胴部の紋様は、2a文様帯と2b文様帯に二分されている。

第9図 礫群



2a 文様帯の紋様は、1本の微隆帯で描かれる。微隆帯に沿って幅広のなぞりが加えられている。紋様は、渦巻紋であるが、波長部下で連結する。間には、下端の丸まる三角形のモチーフが配置される。但し、一部分だけは、渦巻紋に準じている。縄紋は RL であった。

2b 文様帯は、完全に 2a 文様帯とは分離していて、磨消櫛円紋と「の」字状紋の繰り返しである。縄紋は意図的に変えられており、RLR の複節縄紋であった。

第11図2は、両耳壺である。細長い器形であり、区画する横位隆帯から上は無紋、下には磨消縄紋が描かれる。縄紋は RL である。橋状把手の上端部は尖っている。

第12図1は、埋篋 3 である。口縁部が僅かに内灣し

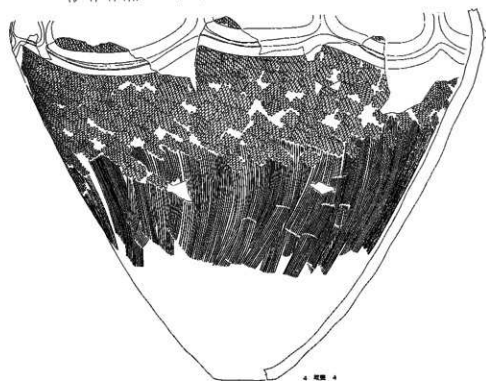
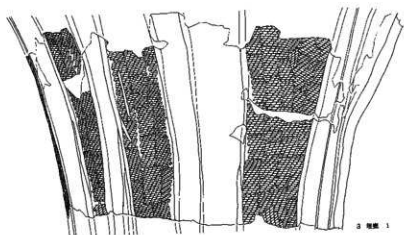
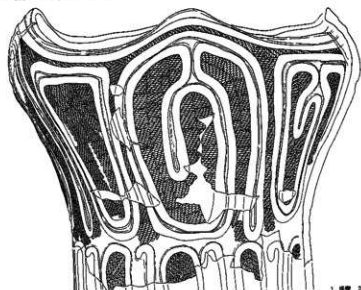
て、胴部中央以下で緩く屈曲する深鉢である。横走沈綿紋で口縁無紋部を区画し、以下に2～3本沈線による磨消懸垂紋が配される。縄紋は LR であった。埋篋以外にグリッドからも接合しており、接合状況は第12図2のとおりである。

埋篋 4 (第10図、第11図4)

一番南側にあった。土器に対して、余裕のある掘り方をしている。掘り方から僅かに浮き上がり、正位に埋まっていた。底面中央部に、窪みがあった。

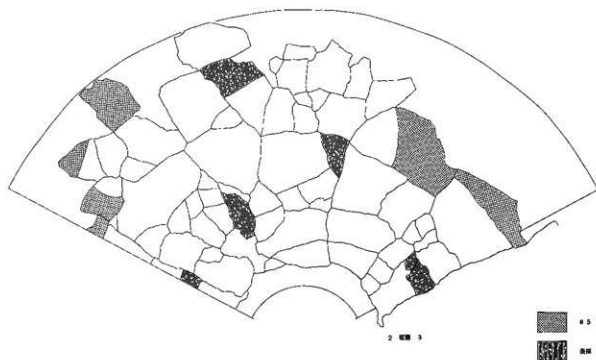
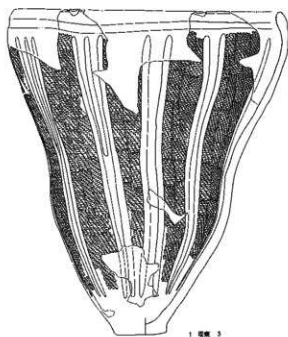
第11図4は、胴部以上がなく、底部が欠けていた。紋様の下限である1本の隆起線が、横に走っている。この時期に特徴的な隆帯に沿った幅広のナゾリがある。RLの縄紋が横・斜方向に施紋され、それより下に条線紋が施紋されている。大形品である。

第11图 埋藏实测图(I)



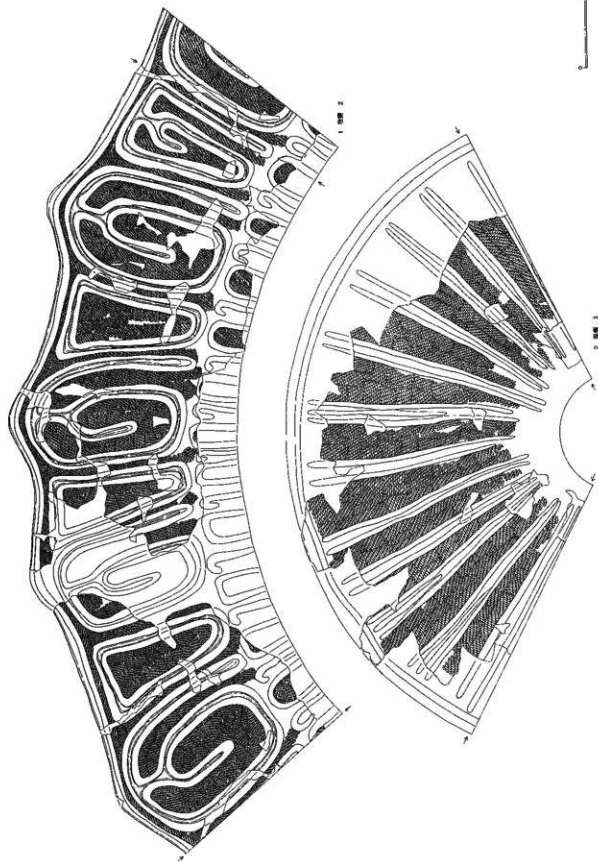
0 10m

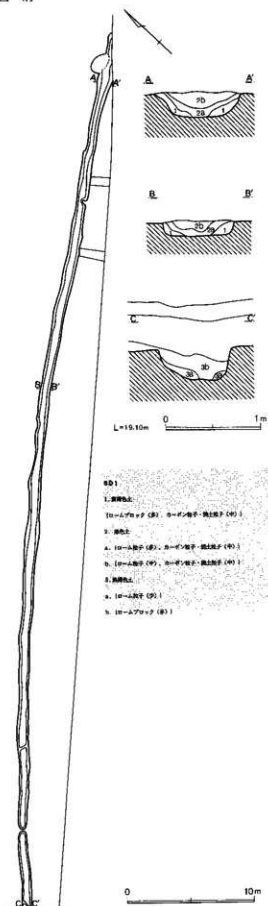
第12图 埋藏实测图(2)



0 10m

第13図 埋塞実測図(3)





第4号土坑 (第14図)

C-6グリッドで見つかった。方位はN-10°-Wであった。直径-0.9mの円形をしていた。深さ-0.6mでほぼ垂直に掘り込まれていた。埋土は自然堆積であった。遺物は出土しなかった。

第5号土坑 (第14図)

F-2グリッドで見つかった。方位はN-8°-Wであった。直径-1.2mの円形をしていた。垂直に掘り込まれていて、深さ-0.5mであった。埋土は自然堆積であった。遺物は出土しなかった。

第6号土坑 (第14図)

F-2グリッドで見つかった。方位はN-59°-Wであった。長径-1.4m、短径-1.0mの楕円形をしていた。深さ-1.0mで垂直に掘り込まれていた。底面に浅い小ピットがあった。埋土は自然堆積であった。遺物は出土しなかった。

第7号土坑 (第14図)

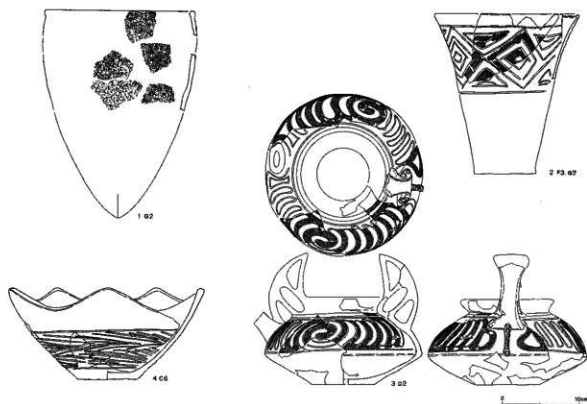
G-2グリッドで見つかった。方位はN-42°-Wであった。長径-1.5m、短径-1.3mの楕円形をしていた。深さ-0.95mで垂直に掘り込まれていた。埋土は自然堆積であった。遺物は出土しなかった。

第1号溝 (第15図)

遺跡を東西に縦断していた。幅-1.2m前後の浅い掘り込みであった。埋土は自然堆積で、黒色土にロームブロックを含む典型的な近・現代のものであった。遺物は出土していない。

4. グリッド出土土器

第16図 グリッド出土土器(1)



中妻三丁目遺跡からは、縄紋時代早期から縄紋時代後期までの土器が出土した。それぞれが、少量ずつの破片であり、器形を復元出来るものも数少なかった。以下、第Ⅰ群土器から第Ⅳ群土器に大別し、さらに類別して記載した。

第Ⅰ群土器(第16図1、第17図1～36) 縄紋早期の土器

第Ⅰ類土器(第16図1) 撚糸紋系土器

G-2グリッドから12個体の同一個体と思われる細片が出土した。復元に使用した6個体以外は微小片であった。赤褐色で焼きが良く、胎土に細砂粒を含む。推定器形は、口縁部が僅かに内潤する尖底土器であろう。撚糸紋系土器終末の細長い器形をしていたと思われる。

口縁部の断面形状は、僅かに肥厚し角頭状をしてい

た。口縁部直下には、指頭によると思われる凹部が観察され、横位に連続するものであろう。紋様はなく、器面は縦方向のミガキが行われていた。全体に点状の剥落があって、特に胴部以下と内面で激しい。

第2類土器(第17図1) 貝殻腹縁紋系土器

1片だけ出土した。赤褐色の焼きの良い土器で、長石の混入が目だった。表裏両面ともにミガキが施されていた。紋様構成は不明であるが、沈線で区画した中に、貝殻腹縁紋が充填されている。田戸下層式に属するものであろう。

第3類土器(第17図2、3) 結条体瓦痕紋土器

2片だけ出土した。褐色で焼きの良い土器で、砂粒を混入している。繊維は混入していない。表面はミガキが施され、鋸歯状の結条体瓦痕紋が施紋されている。時期判定は難しいが、第4類の条痕紋系土器に伴うも

のとしておきたい。

第4類土器(第17図4-36) 条痕紋系土器

本遺跡では、相対的に出土の多い土器であった。褐色・赤褐色系の色調をしていて、胎土に繊維を含む。焼きもそれほど悪くない。表裏に条痕紋が施されるだけで、主体となる紋様はない。胴部破片が主で、口縁部破片は無かった。茅山土層式に比定しておきたい。

第II群土器(第18図-第20図) 縄紋前期の土器

第1類土器(第18図1-57、第19図1-27) 羽状縄紋系土器

a(第18図1-57) 胎土に繊維を含み、0段多条による横位の羽状縄紋が施されている。羽状縄紋は結束であることが多い。裏面はミガキが行われる事が多い。繊維を含む割りには、焼きは良い。

1は施紋方向を微妙に変えて、条の方向が菱形をしている。1-20は、コンパス紋が縄紋施紋後に描かれている。1-15は、軸を交互に換えたもので、円弧が入り組む。18は波状に変化している。

21-28は、縄紋を地紋とした沈線紋による鋸歯状紋、および類似した紋様を描いている。29-36は、縄紋によるループ紋が施されている。42は、口縁部で口唇部に刻みが施されている。

43-47は焼きが良く、器厚が薄い。縄紋は、やはり0段多条である。土器の顔つきが違い、他とは一見してすぐ判る。

51-57は底部片である。51-54はこの時期に典型的な上げ底である。上げ底部はミガキが加えられる。55-57は、平底である。

b(第19図1-19) 胎土に繊維を含む点では共通するが、縄紋が様変わりしている。組紐に類似した縄紋で、縄の捻りに対して組んでいく組み方が逆になったものである。器面には複節縄紋的な現れ方をしている。いわゆる、組紐の組み違えである。内面は、ミガキが施されている。

c(第21-27) 胎土に繊維を含む。a-bに比較して、器面の荒れが激しい。縄紋は単節・無節となる。21-23は、口縁部破片で、23にはボタン状の円形貼り

付け紋が付されている。24、25は、無節Rで内面にカーボンが付着する。27は、屈曲を持つ器形で、格子状の沈線紋が施されている。

第2類土器(第19図28-39、第20図1-14) 諸磯式浮線紋系土器

胎土に繊維を含まない。赤褐色と橙白色をする破片が2個体分出土した。30、31は、赤褐色をしていて、胎土に長石系の砂粒を多く含む。内面に砂粒が表出する。橙白色をした個体は、精緻な胎土で内面にミガキが施されている。

RL単節縄紋を地紋として、浮線紋による紋様が貼り付けられている。浮線上には、斜方向の刻みが加えられている。浮線が隣接する場合には、キザミが反対方向となる。紋様構成等は判らない。

第3類土器(第20図15-43) 諸磯式集合沈線紋系土器

a(15-34) 胎土に繊維を含まない。単節縄紋を地紋として、横方向・斜方向の集合沈線紋が密に施されている。紋様構成は細片のため判断出来ない。

b(35-43) 胎土に繊維を含まない。地紋の縄紋は消失し、縦方向の集合沈線紋が極めて密接に施されている。

第III群土器(第21図、第22図1-34) 縄紋時代中期の土器

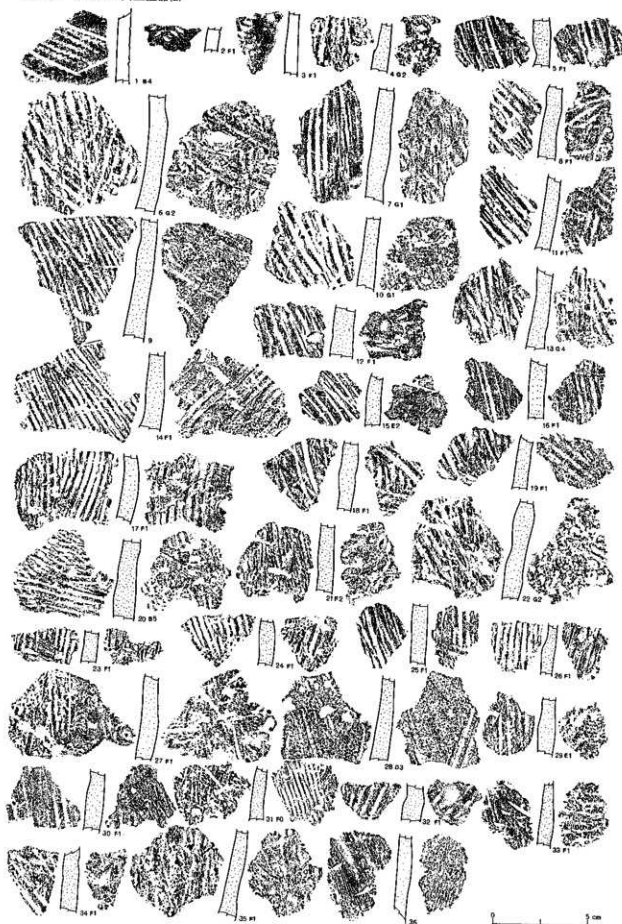
第1類土器(第21図1-26) 五領ヶ台式系土器

極めて焼きが良く、精緻な胎土で長石系の混入が目立つ。沈線紋を基調に三角形の刻み紋・結節沈線紋などで紋様を描く。1-5は深鉢口縁部。1は、口縁下に三角形の刻み紋・小円形刻み突紋が施されている。

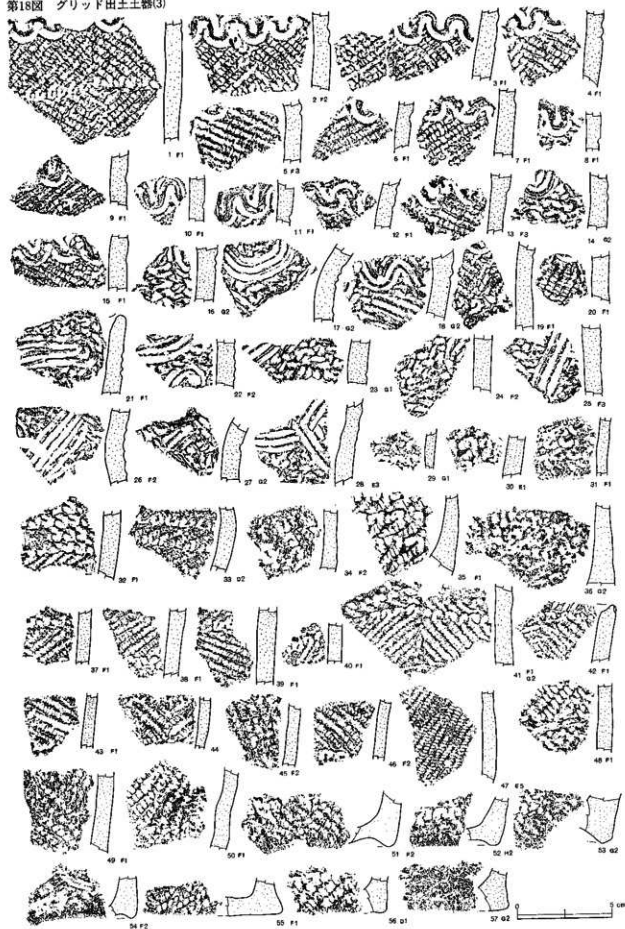
3、4は口縁部を貼り付けて肥厚させ、長めの刻みを付ける。9は渦紋と三角形の刻み紋が施されている。10は口縁部下部で結節沈線紋が描かれている。11は波状口縁部で、表面に集合沈線紋、裏面に結節沈線紋による紋様が描かれる。

17-26に見られるように、胴部は縦方向の緩線り紋が施されている。

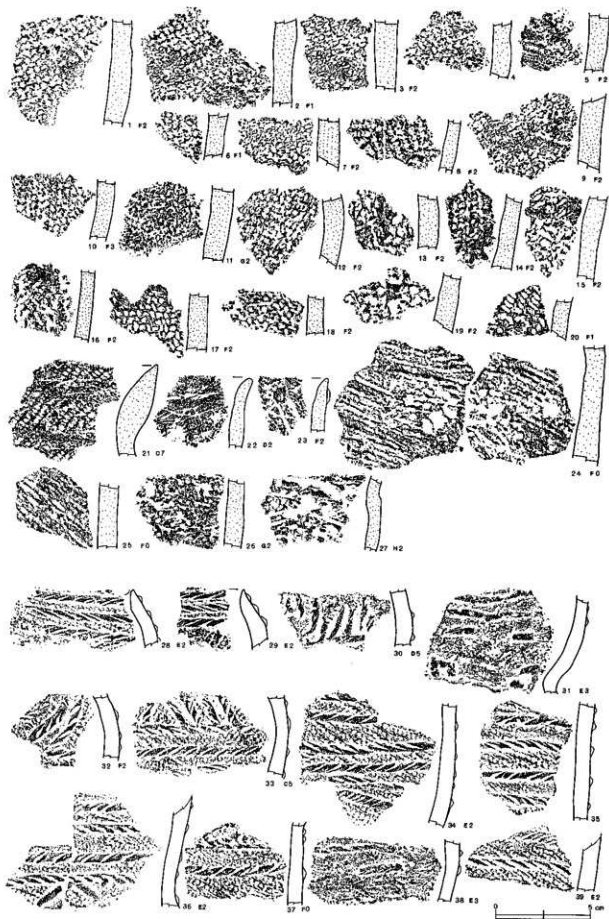
第17図 グリッド出土土器(2)



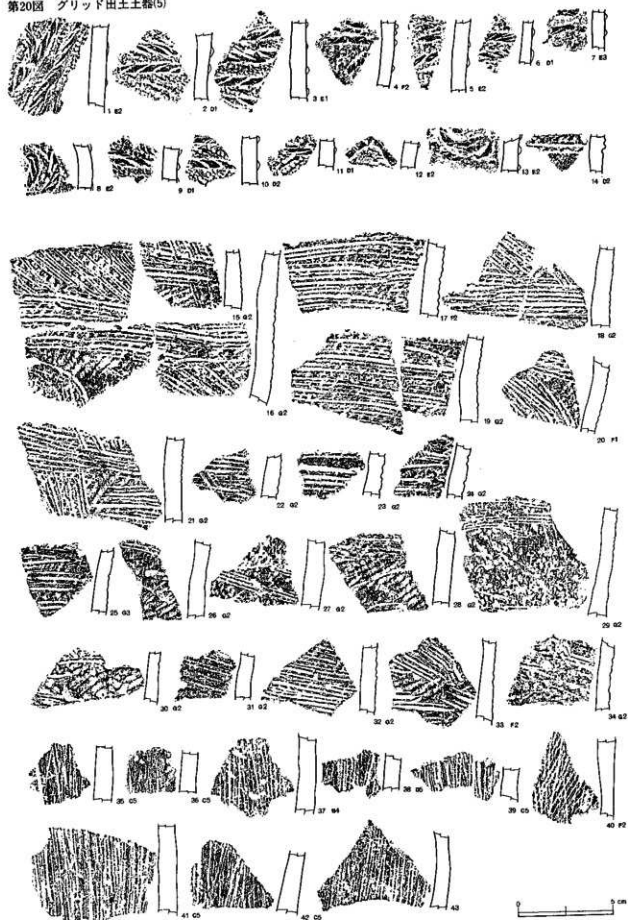
第18図 グリッド出土土器(3)



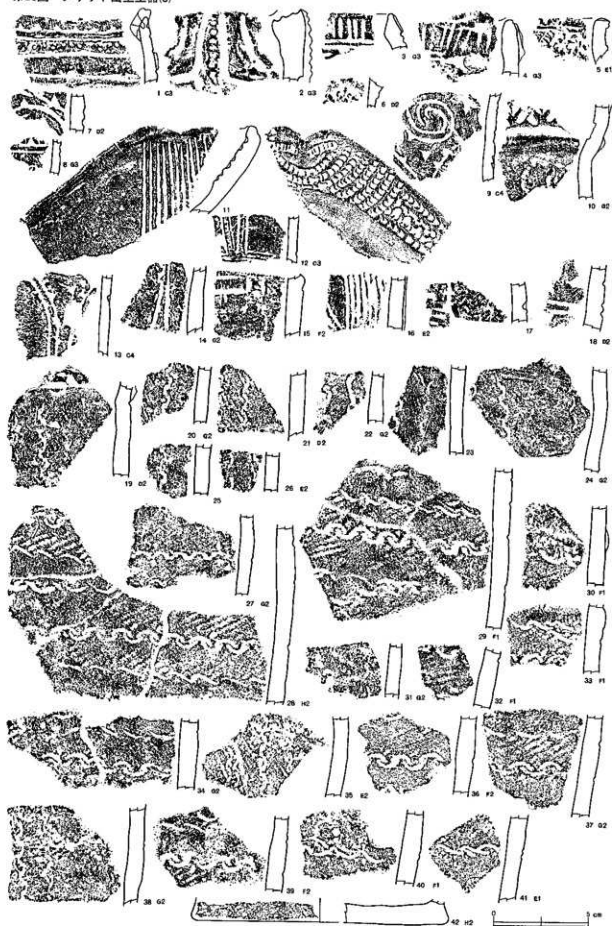
第19図 グリッド出土土器(4)



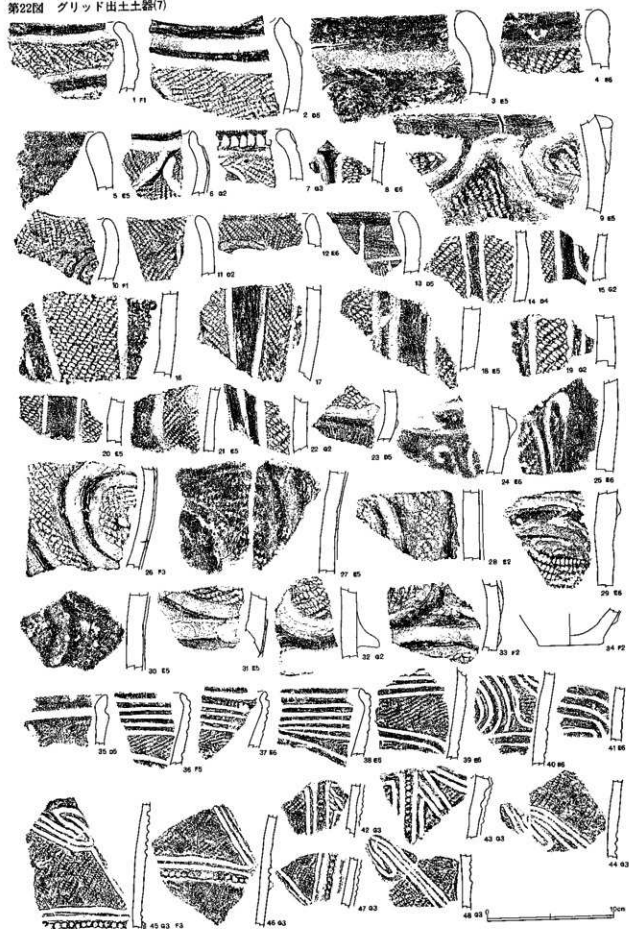
第20図 グリッド出土土器(5)



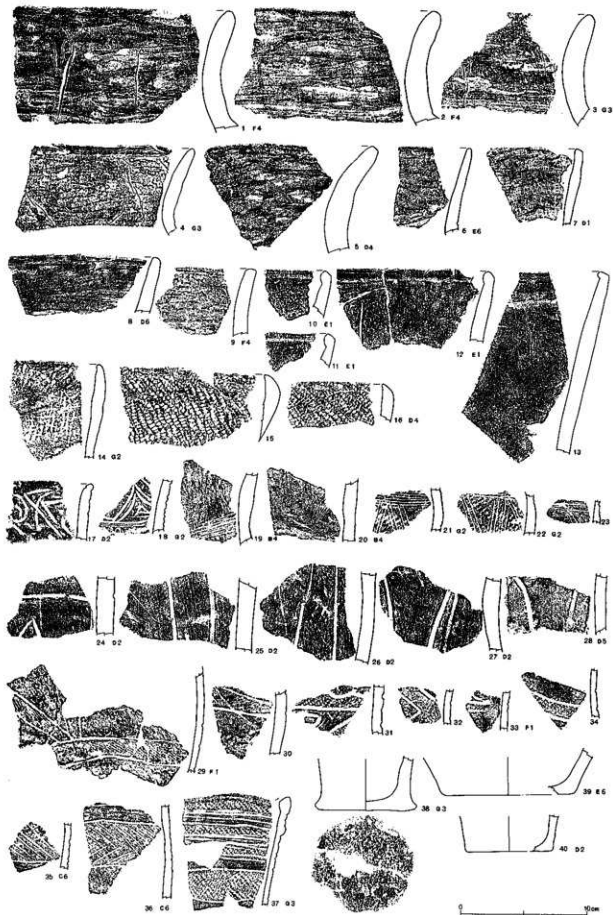
第21図 グリッド出土土器(6)



第22図 グリッド出土土器(7)



第23図 グリッド出土土器(8)



第2類土器(第21図27~41) 下小野式系土器

暗褐色・赤褐色をしていて、焼きは多少悪い。横位施紋のしR単節縄紋で、綾繰り紋が横位に入る。綾繰り紋、縄紋を主紋様とする。

第3類土器(第22図1~34、第23図1~5) 加曾利E式土器

全て、加曾利EⅢ式土器であった。1~4、6、9は口縁部紋様帯と胴部紋様帯に分離する加曾利E系列である。7、10~12は波状沈線区画紋系列である。14~25は胴部磨消縄紋の破片で、24、25には「の」字状の沈線紋が描かれている。

26~34は胴部渦巻紋系列の土器で、2本一組の微隆起線紋、1本の微隆起線紋で渦巻紋が描かれる。34は、底部片で僅かに微隆起線が認められる。

第23図1~5は、「く」字状に緩く外反する無紋口縁部である。表裏ともに横方向のミガキが施されている。判断しにくい中期段階としておく。

第IV群土器(第16図2~4、第22図35~48、第23図6~34、38~40) 縄紋時代後期の土器

第1類土器(第22図35~48) 堀之内1式土器

縄紋を地紋として、沈線紋が描かれている。36~39、42~48は同一個体である。朝顔形の器形をしていて、口縁部端部で僅かに内灣する。45、46には紋様帯を区画する刻みの入った隆帯が見られる。

第2類土器(第23図6~28) 堀之内1式末~堀之内

2式始めにかけての土器

10~13は、無紋の深鉢で口縁部裏面が肥厚する。沈線はない。

17~23は、沈線紋が多条化したものである。21~23は縄紋を地紋としている。24~28は、一本描き沈線によって紋様が描かれるもの。時間的に幅があるが、この時期が次の段階であろう。

第3類土器(第16図2、3、第23図29~34) 堀之内2式

第16図2は、注口土器である。枠空間が3段ある対の把手があった。注口部は欠損する。胴部上半に磨消縄紋による渦紋が4単位描かれている。

2は小形の深鉢である。口縁部裏面が肥厚し沈線紋が施紋されている。三角形・菱形の紋様が磨消縄紋で胴部上半に描かれている。29~34は、胴部磨消縄紋破片である。

第4類(第16図4、第23図35~37) 加曾利B式以降の土器

第16図4は、5単位波状口縁浅鉢である。口縁部下を無紋として、横位の沈線で区画し、横位の矢羽根状沈線が施紋されている。沈線は細く鋭い。35、36は同時期の深鉢である。

37は、安行1式の平縁深鉢であるが、緩い波状をしている。特徴的な口縁部断面形状をしていて、茨城県から福島県の海岸部に中心のある「寺脇系列」である。

5. グリッド出土石器

尖頭器 (第24図1、3)

1、3共にグリッド・表採である。1は先端部が欠けている。正面図左側に緩く弧を描き、左右非対称である。裏面には、主要剥離面の僅かな高まりが残っている。雑な剥離で成形される。3は、上下両端が欠落している。比較的雑な剥離で成形されている。

石鏃 (第24図2、4～27)

形状・技法によって、5類別した。いずれも、グリッドと表採である。

a (5) グリッド出土。基部の左右に袈が入り、僅かに突出する。基部から上は、石鏃cと同じで雑な剥離で成形されている。

b (2) 長さ-4.2cmと長く、袈が入る。剥離は比較的整然としている。

c (4～20) 本遺跡で一番多い大形三角形石鏃である。裏面に主要剥離面を残し、不揃いな剥離によって、仕上げられている。正面図左側に剥離を集中させるものが、以外に多い。4、6～10、14～17などが典型である。基部は、多少の凹凸があるが、基本的には平坦にされている。

d (21) 有基石鏃である。1点だけ出土した。表裏両面に押圧平行剥離が加えられて、流麗に仕上げられている。

e (22～27) 袈入り。大小の別がある。両辺部の成形剥離後、基部に袈が入る。23は脚部が欠失する大形品である。

スクレイパー (第24図28、29)

28は、技法的には石鏃bと峻別出来ないが、先端が丸く剥離成形されているために本類とした。裏面に主要剥離痕が残っている。29はエンド・スクレイパーである。裏面に主要剥離痕を残す。裏面から小剥離を加えて、スクレイパー・エッジを形成している。

有溝砥石 (第24図30)

円礫を打割して、平坦面を作り、溝を形成する。溝内には、縦方向に擦痕が認められる。

石匙 (第25図1)

縦形である。図上面に摘み部が付けられる。中央部以下を欠損する。主要剥離面を裏面に残す。裏面からの剥離によって刃部が形成されている。

磨製石斧 (第25図2、3)

2、3ともに定格磨製石斧である。2は刃部が欠けている。上端部と裏面部に敲打痕が残存するほかは、入念な磨成形が行われている。3は頭部だけ残っている。やはり、上端部に敲打痕がある。

礫器 (第25図5、6、8)

5は、中央以下を欠損する。縦長の礫を素材として側面に剥離が加えられている。6、8は、礫を打割した素材剥片に最小限の剥離を加えて、刃部とした。剥離は、いずれも裏面から加えられている。

スタンプ形石器 (第25図7)

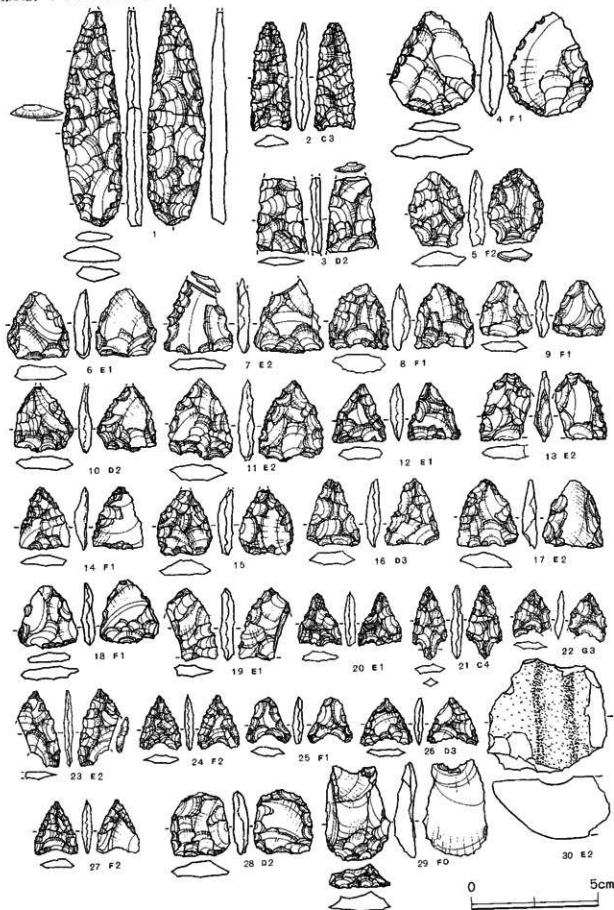
細長の石材下端を1回の大剥離で、平坦にして刃部とする。剥離部端部に使用痕が残っている。

磨石・敲石・凹石 (第25図4、9～12)

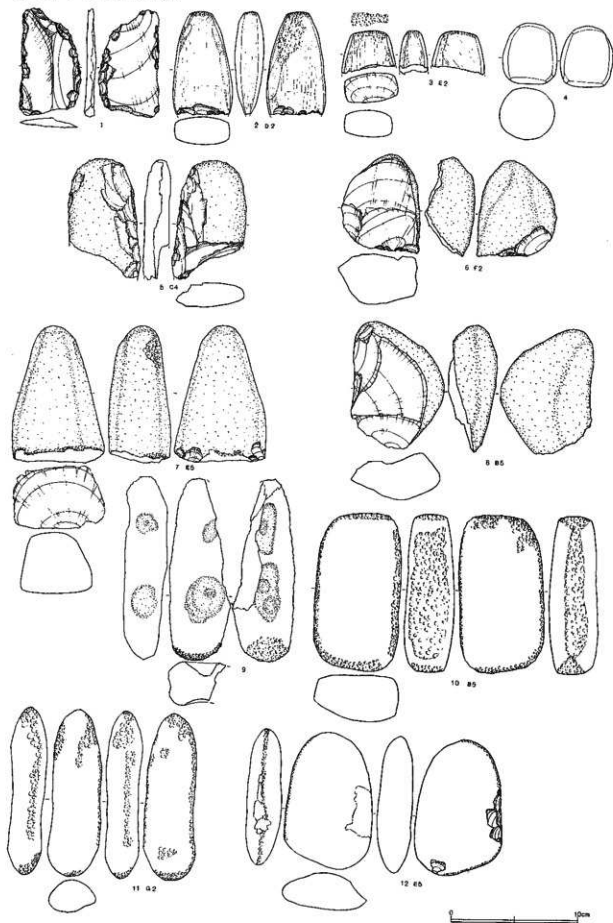
4は、おむすび形の磨石である。下部をフラットにして、入念に成形されている。9は凹石である。表裏両面・側面に凹部があるほか下端部に敲打痕が認められた。

10～12は、細長石材の端部・側面部に敲打痕が残っていた。

第24図 グリッド出土石器(1)



第25図 グリッド出土石器(2)



第2表 縄紋時代出土石器一覧

番 号	出土地点	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備 考
第24図	1 表採	尖 頭 器	8.5	2.3	0.8	14.34	安 山 岩	
	2 C-3	石 鎌	4.2	1.6	0.5	3.33	チャート	
	3 D-2	尖 頭 器	3	2	0.4	2.69	安 山 岩	
	4 F-1	石 鎌	4.1	3.4	0.9	10.62	砂 岩	
	5 F-2	石 鎌	3	2.2	0.7	4	頁 岩	
	6 E-1	石 鎌	2.7	2.5	0.6	4.18	砂 岩	
	7 E-2	石 鎌	2.9	2.8	0.5	3.76	頁 岩	
	8 F-1	石 鎌	2.6	2.4	0.7	3.81	チャート	
	9 F-1	石 鎌	2.2	2.1	0.5	2.53	砂 岩	
	10 D-2	石 鎌	2.6	2.4	0.5	2.73	頁 岩	
	11 E-2	石 鎌	3.2	2.6	0.6	5.07	砂 岩	
	12 E-1	石 鎌	2.3	2.1	0.5	2.32	砂 岩	
	13 E-2	石 鎌	2.7	2	0.7	3.09	チャート	
	14 F-1	石 鎌	2.5	2	0.5	1.73	頁 岩	
	15 表採	石 鎌	2.6	2.2	0.6	3.09	安 山 岩	
	16 D-3	石 鎌	2.7	2.1	0.6	2.69	チャート	
	17 E-2	石 鎌	2.7	2.4	0.6	3.66	頁 岩	
	18 F-1	石 鎌	2.5	2.3	0.5	2.57	砂 岩	
	19 E-1	石 鎌	2.9	2.1	0.5	2.23	チャート	
	20 E-1	石 鎌	2.1	1.7	0.4	1.03	黒 曜 石	
	21 C-4	石 鎌	2.9	1.4	0.5	1.24	チャート	
	22 G-3	石 鎌	1.9	1.5	0.3	0.69	チャート	
	23 E-2	石 鎌	3	1.7	0.4	1.36	チャート	
	24 F-2	石 鎌	2.2	1.7	0.3	0.9	チャート	
	25 F-1	石 鎌	1.8	1.8	0.4	0.97	砂 岩	
	26 D-3	石 鎌	1.9	2.1	0.3	0.98	チャート	
	27 F-2	石 鎌	2.1	1.7	0.4	0.97	頁 岩	
	28 D-2	スクレイパー	2.6	2.3	0.6	3.98	頁 岩	
	29 F-0	スクレイパー	3.8	2.6	0.9	8.23	安 山 岩	
	30 E-2	砥 石	4.6	4.5	2.4	48.16	安 山 岩	
第25図	1 表採	スクレイパー	8.9	4.9	0.9	41.36	安 山 岩	
	2 D-2	磨 製 石 斧	8.1	4.7	2.3	155.5	硬質砂岩	
	3 E-2	磨 製 石 斧	3.4	4.2	2.3	50.6	安 山 岩	
	4 表採	磨 製 石 斧	4.8	4.3	4.1	121.2	安 山 岩	
	5 C-4	礫 器	9.5	5.8	2.1	133.6	凝 灰 岩	
	6 F-2	礫 器	7.7	6.3	3.9	229.7	砂 岩	
	7 E-5	スタンプ形石器	10.7	7.3	5	511.3	砂 岩	
	8 B-5	礫 器	10	7.3	3.9	307.5	砂 岩	
	9 表採	凹 石	14.4	4.9	3.5	358	緑泥石片岩	
	10 B-5	敲 石	12.4	6.8	4	586.7	粘 板 岩	
	11 G-2	敲 石	13.2	4.2	2.8	206.8	凝 灰 岩	
	12 E-5	敲 石	10.7	6.9	2.8	281.1	砂 岩	

V 結語

1. 大宮台地の胴部渦巻紋系列（追加）

筆者は、一度、埼玉県の加曾利EⅢ式を構成する胴部渦巻紋系列を集成する機会があった（事業団報告 第106集）。極めて不十分なものであった。今回、大宮台地に限って追加する。当然のことではあるが、中妻三丁目遺跡の埋襲も追加される。

今同時に注目されるのは、椿山遺跡（蓮田市）・第9号住居跡である。胴部渦巻紋系列が迫りうる大木式・胴部渦巻紋系列が出土していることである。筆者の狭

2. 大宮台地の加曾利EⅢ式～称名寺式

加曾利EⅢ式・大木9式、加曾利EⅣ式・称名寺式・大木10式を考える機会があった（事業団報告 第144集）。その際、不十分なながら分析視点を述べた。今回は、そうした分析視点をふまえて、大宮台地の加曾利EⅢ式～称名寺式を分析する。

<住居跡の分別>

大宮台地の加曾利EⅢ式～加曾利EⅣ・称名寺式の住居跡などの一括資料を出来るだけ集成する。次に、時期分別をすべての遺構に対して行う。その際、単一器種に片寄らずに破片を含めた全体的なバランスで決定する。

後期段階は、加曾利EⅣ式が単相で出土する遺構、加曾利EⅣ式と称名寺式が伴出する遺構、称名寺式の古い段階が単相で出土する遺構の3大別にする。この大別は、時期差ではない。加曾利E系統・称名寺系統・中津系統のクロスチェックをするための分別である。さらに、加曾利EⅢ式との系列の連続性をもチェックする。

この分別は、第27図の左側に示した。筆者の大宮台地における加曾利EⅢ式、加曾利EⅣ・称名寺式についての見解である。無論、漏れがあるので今後、増補に努めたい。又、微妙な遺構についての再検討も必要である。加曾利EⅢ式と加曾利EⅣ・称名寺式の数のバランスを診ていただきたい。

小さな知識では、古井戸遺跡・J-49及び、將監塚遺跡・J-93に先行するものである。渦巻の端部に「フ」字状の特徴的隆帯が加わる。伴出する土器は、磨消速弧紋、胴部の磨消懸垂紋の先端が丸く処理される加曾利E系列である。今後、千葉県で類例を増加しつつある、大木式・胴部渦巻紋系列と千葉県に多くある磨消速弧紋を視野に入れた分析が必要である。

<土器の様相>

第27図に示した。各遺構から様相を良く表した土器を選抜して、掲載した。従来、称名寺式の影に隠れがちな加曾利EⅣ式についても、提示に努めたが3系列にとどまった。点線は加曾利EⅣ式と称名寺式との比較であって、時期差ではない。

称名寺式については、明花車遺跡・1号住居跡（浦和市）で中津系統の土器が伴出している。横浜方面を経由した関東以西の土器が大宮台地に進出する状況を良く示している。

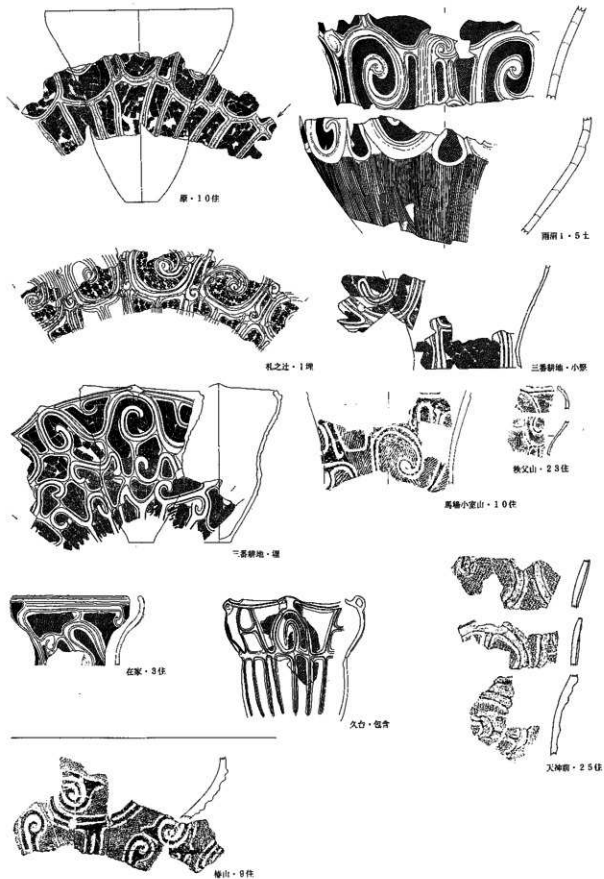
加曾利EⅢ式の胴部渦巻紋、加曾利EⅣ式の胴部渦巻紋、称名寺式の胴部渦巻紋の三者を比較していただきたい。称名寺式の渦巻2段の上器と加曾利EⅢ式の渦巻2段の關係の深さ（風早遺跡・埋襲（庄和町）と馬込遺跡・10住（岩槻市）など）と西大宮バイパスNo.5遺跡・1住（大宮市）の杵状紋が加味された渦巻2段は物語の序章である。

加曾利EⅢ式から変化する加曾利EⅣ式、中津系統の影響を受ける加曾利EⅣ式、加曾利EⅢ式の変化と中津系統の融合する称名寺式、大木式と關係のある称名寺式と様相はますます複雑である。

（稿了 1994.8.9 猛著）

*. 限定されたスペースで、本書作成時に考えた事を記載した。引用文献などを全て省略した。正式な論考時にきちんと掲載したいので御寛容をお願いしたい。

第26図 大宮台地の胴部渦巻紋系列（追加）



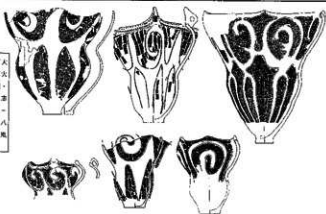
第27図 大宮台地の加曾利EⅢ式～称名寺式

加會利EⅢ式

① 陈天华 (大冤家) ② 陈天华 (大冤家) ③ 陈天华 (大冤家) ④ 陈天华 (大冤家) ⑤ 陈天华 (大冤家) ⑥ 陈天华 (大冤家) ⑦ 陈天华 (大冤家) ⑧ 陈天华 (大冤家) ⑨ 陈天华 (大冤家) ⑩ 陈天华 (大冤家) ⑪ 陈天华 (大冤家) ⑫ 陈天华 (大冤家) ⑬ 陈天华 (大冤家) ⑭ 陈天华 (大冤家) ⑮ 陈天华 (大冤家) ⑯ 陈天华 (大冤家) ⑰ 陈天华 (大冤家) ⑱ 陈天华 (大冤家) ⑲ 陈天华 (大冤家) ⑳ 陈天华 (大冤家) ㉑ 陈天华 (大冤家) ㉒ 陈天华 (大冤家) ㉓ 陈天华 (大冤家) ㉔ 陈天华 (大冤家) ㉕ 陈天华 (大冤家) ㉖ 陈天华 (大冤家) ㉗ 陈天华 (大冤家) ㉘ 陈天华 (大冤家) ㉙ 陈天华 (大冤家) ㉚ 陈天华 (大冤家) ㉛ 陈天华 (大冤家) ㉜ 陈天华 (大冤家) ㉝ 陈天华 (大冤家) ㉞ 陈天华 (大冤家) ㉟ 陈天华 (大冤家) ㊱ 陈天华 (大冤家) ㊲ 陈天华 (大冤家) ㊳ 陈天华 (大冤家) ㊴ 陈天华 (大冤家) ㊵ 陈天华 (大冤家) ㊶ 陈天华 (大冤家) ㊷ 陈天华 (大冤家) ㊸ 陈天华 (大冤家) ㊹ 陈天华 (大冤家) ㊺ 陈天华 (大冤家) ㊻ 陈天华 (大冤家) ㊼ 陈天华 (大冤家) ㊽ 陈天华 (大冤家) ㊾ 陈天华 (大冤家) ㊿ 陈天华 (大冤家)

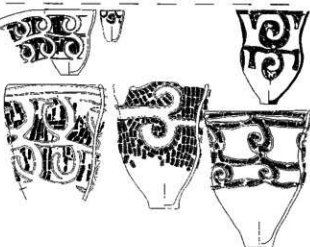


加會利E IV式單相

[illegible]

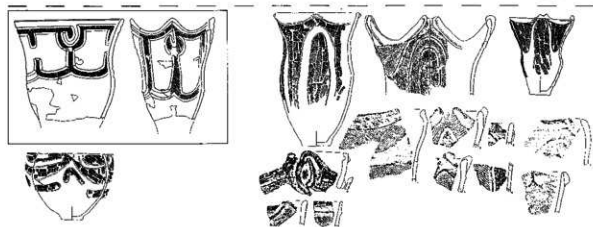
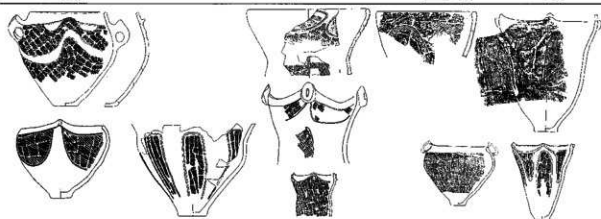
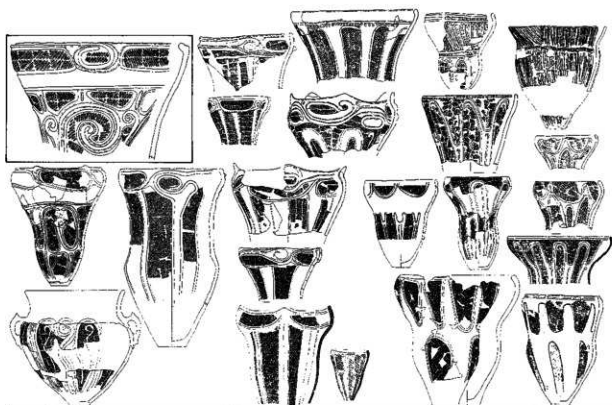
加曾利E IV式+称名寺式

熊秉真：1任（福州府），金/李（3次），陆廷（康熙朝），臧否公，3任（大吏官），臧否公，5任（大吏官），臧否公，11任（大吏官），下知，仍任（大吏官），下知，12任（大吏官），准大吏官，*Chang Niu*：1任（大吏官），A—64号，1任（大吏官），马廷，陆廷（康熙朝），永兴，11任任（伊密府），
永兴，8任（伊密府），永兴天祥前，18任12（李学理），主手，1任（永北州），属辖下，2任
(康熙朝)

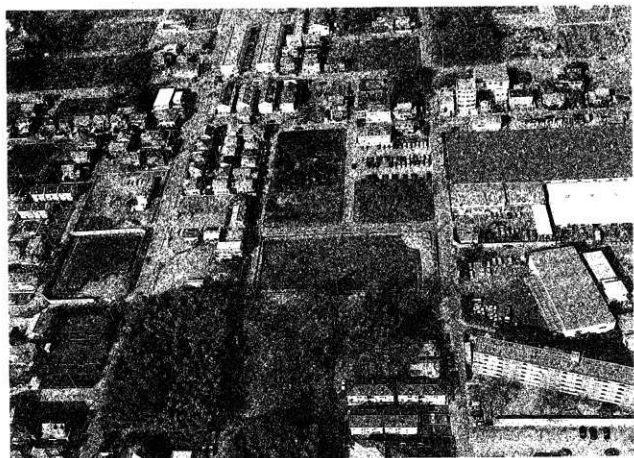


称名寺式

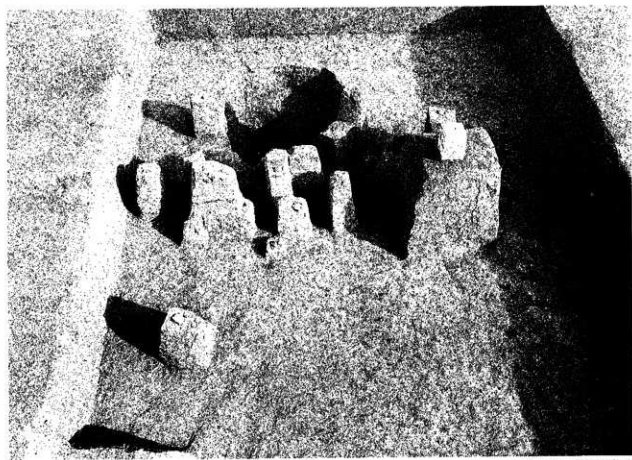
粵雅堂。1. 住(大宮市), 鎌倉公園。4. 住(大宮市), 日暮新地。6. 住(上尾市), A。即等。7. 住(大宮市), 鎌倉公園。8-9. 住(大宮市), A。10-11. 住(大宮市), 北越。12. 住(浦和市), 北越。13. 住(浦和市), 大塚站内。7. 住(浦和市), 大塚山。15. 住(浦和市), 山下。15. 住(上尾市), 山下。1. 住(上尾市), 瑞南。3. 住(上尾市), 下。1. 住(上尾市), “十一”新地。2。3. 住(上尾市), 西込山原。2. 住(上尾市), 瑞南。



写真図版



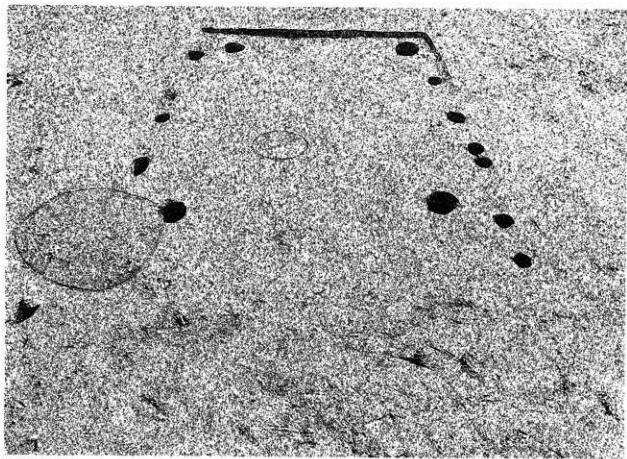
遺跡全景



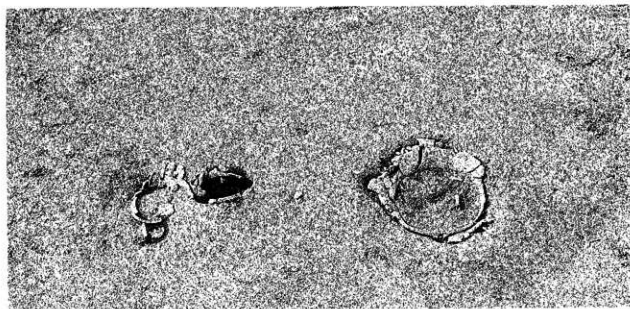
先土器時代石器集中



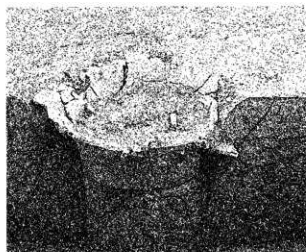
第1号住居跡



第2号住居跡



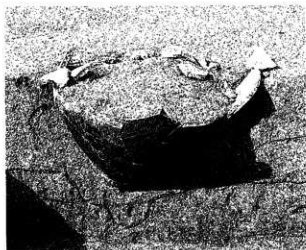
埋藏 1 · 2 · 3



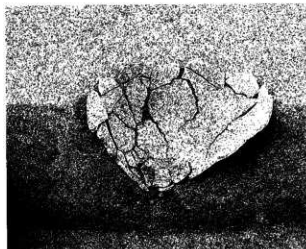
埋藏 1



埋藏 2 (内部)



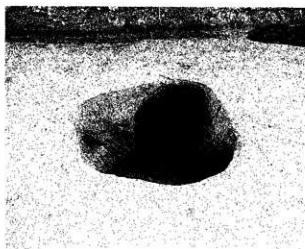
埋藏 4



埋藏 4 (内部)



第1号土壤



第2号土壤



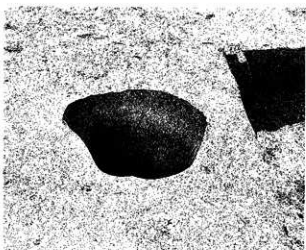
第4号土壤



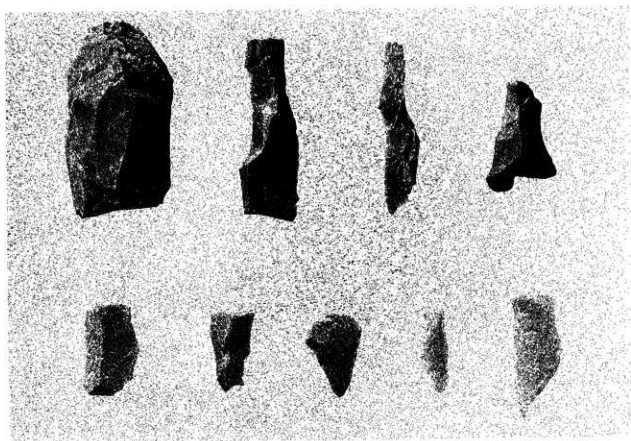
第5号土壤



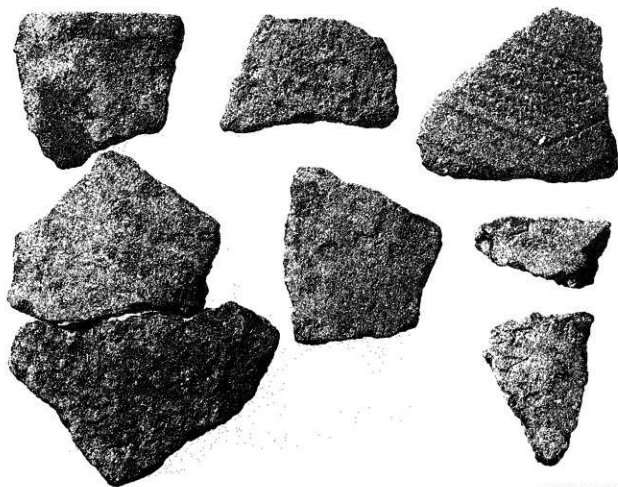
第6号土壤



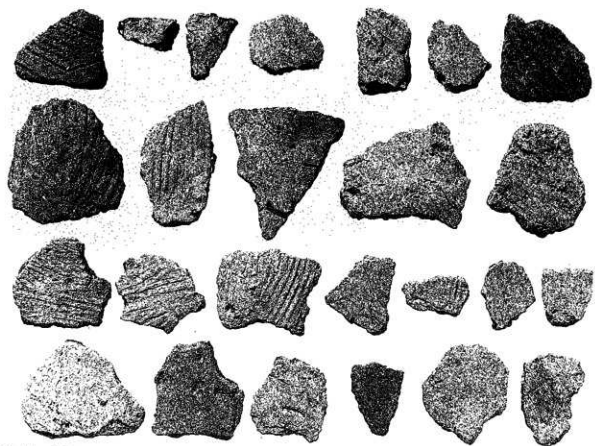
第7号土壤



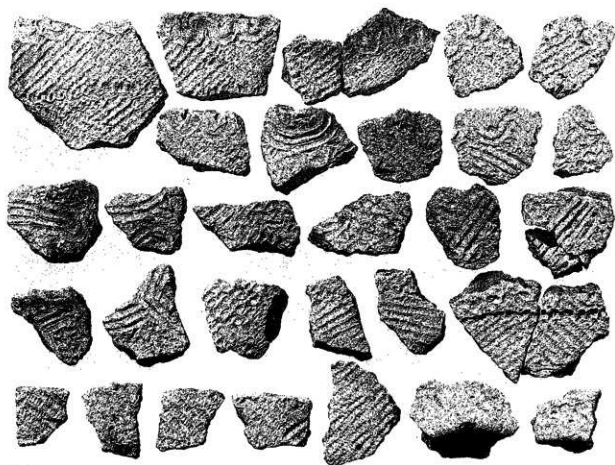
先土器時代石器



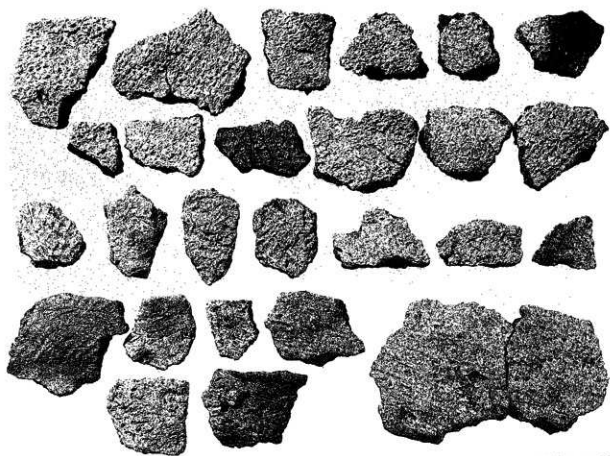
縄紋時代土器(1)



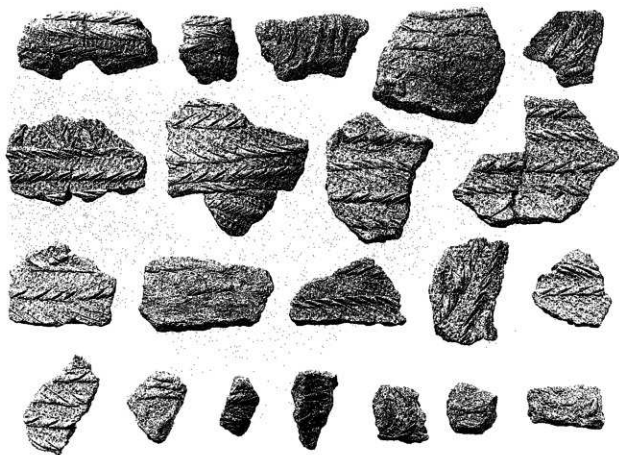
縄紋時代土器(2)



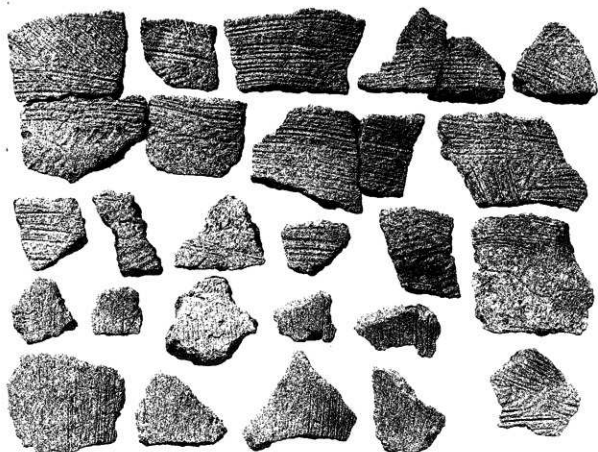
縄紋時代土器(3)



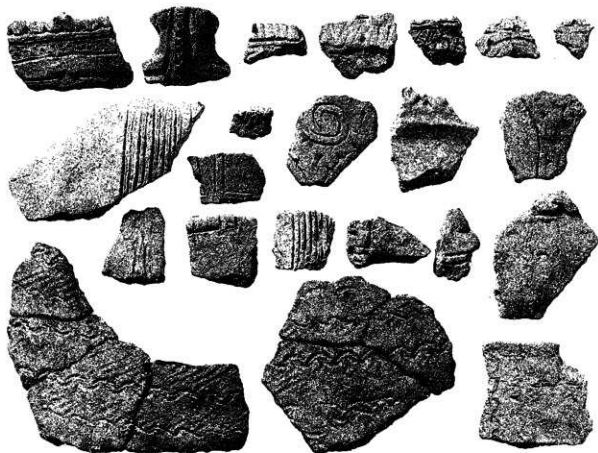
繩紋時代土器(4)



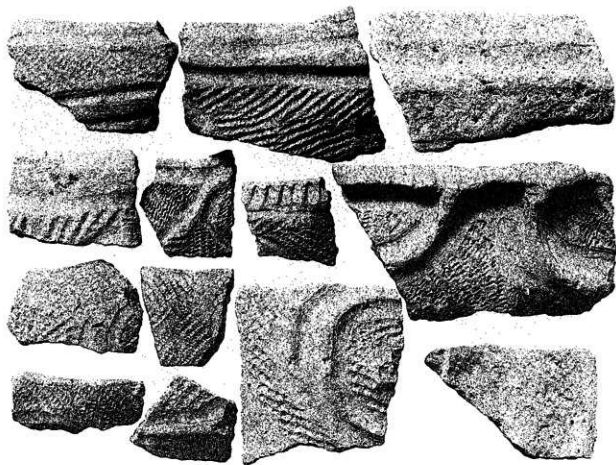
繩紋時代土器(5)



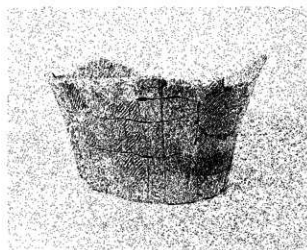
繩紋時代土器(6)



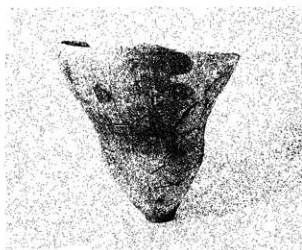
繩紋時代土器(7)



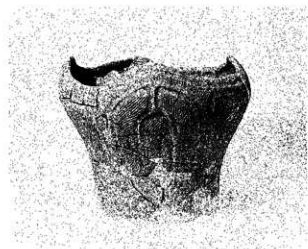
縄紋時代土器(8)



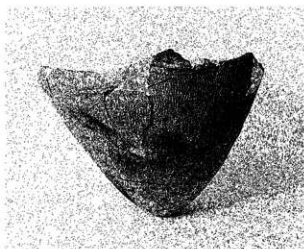
埴甕 1



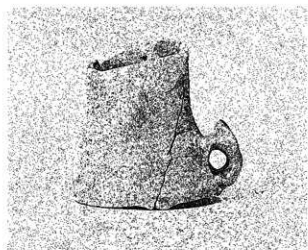
埴甕 3



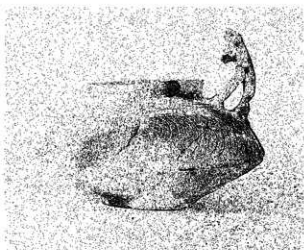
埋壺 2



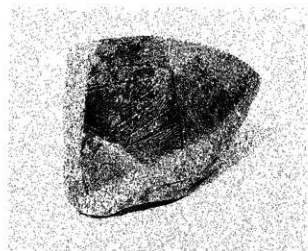
埋壺 4



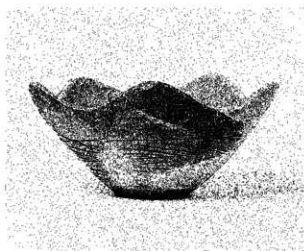
埋壺 2 内土器



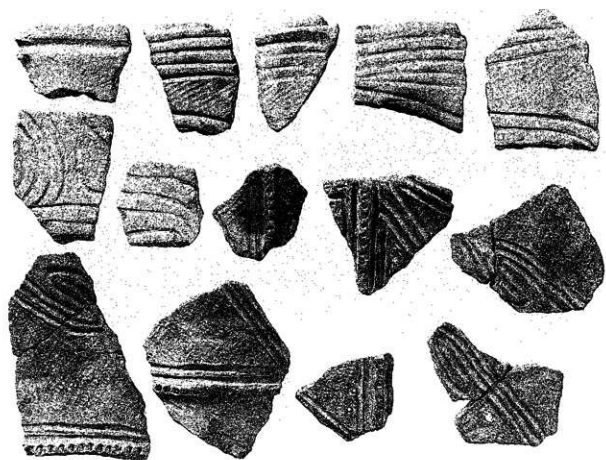
縄紋時代土器(9)



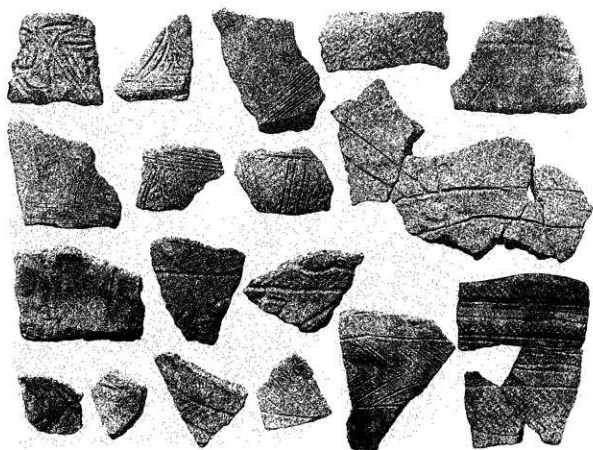
縄紋時代土器(10)



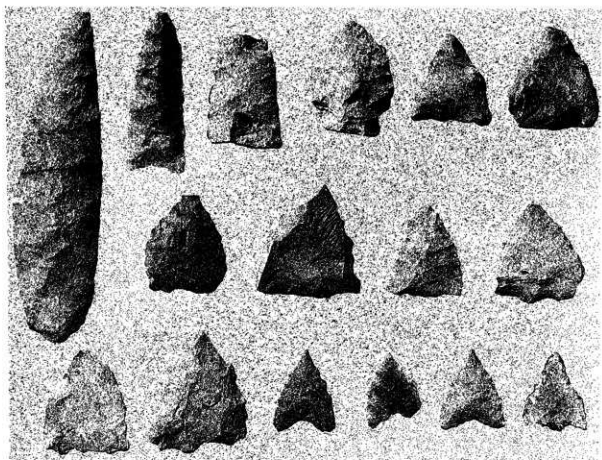
縄紋時代土器(11)



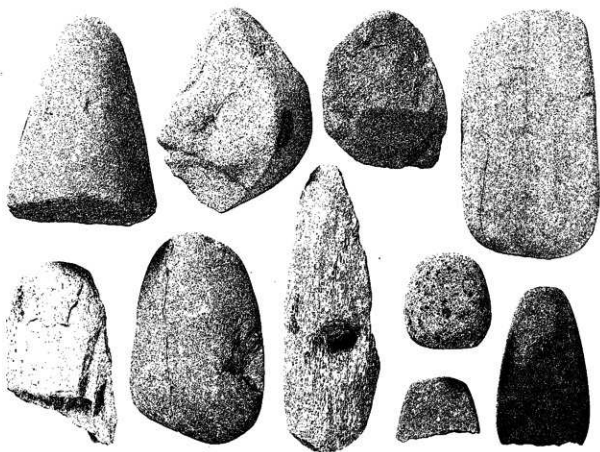
縄紋時代土器(12)



縄紋時代土器(13)



縄紋時代土器(1)



縄紋時代土器(2)

報告書抄録

ふりがな	なかづま さんちようめ いせき							
書名	中妻三丁目遺跡							
副書名	上尾中妻団地関係埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第159集							
著者氏名	橋本 勉							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒361-01 埼玉県大里郡大里村大字箕輪字船木884						TEL 0493-39-3955	
発行年月日	西暦1994（平成6）年9月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
なかづまさんちようめいせき 中妻三丁目遺跡	さいたまけん けふ しなかづま 埼玉県上尾市中妻 さんちようめ 三丁目18番地 1	11219	308	35°58'49"	138°56'40"	19920901～ 19921225	3,000	住宅建設
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
中妻三丁目遺跡	集落跡	先土器時代		石器集中 1		縄紋式土器 石 器		
		縄紋時代草創期		竪穴住居跡 2				
		早期・前期		上墳 7				
		中期・後期 近・現代		溝 1				

埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第139集

上尾市

中妻三丁目遺跡

上尾中妻団地建設関係埋蔵文化財調査報告

平成6年9月20日 印刷

平成6年9月30日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-01 大里郡大里村大字箕輪字船木884

電話 0493 (39) 3955

印刷／徳太陽美術